

中田かわら版 9 月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■この人に会いたい<77>

我が人生、正々堂々地域と共に!!

向根下自治会長 渡邊 正明さん (74)

緩やかな中田の丘のどこから見ても富士は美しい。渡邊さんが生まれた昭和 25 年頃、【ここは「向が原」とか「向い原」と呼ばれていたような。田んぼばかりで夏はカエルがうるさく鳴き、外灯も少なく真っ暗な村だった】と記している。これは 2015 年「かわら版」7 月号に掲載されているご本人の寄稿「向根下自治会創立 50 周年を迎えて」の一節である。中田生まれの渡邊さんは地元の中田小学校、中和田中学校を経て横浜商業高校を卒業した。体力、運動神経に恵まれ生来のマケズ嫌いと鍛錬で、中学ではバスケットボールで県大会準優勝、高校では陸上部で活躍した。軟式野球やソフトボールもやった。さらに活躍は続き中和田青年団新春ロードレース大会優勝、健民祭では向根下自治会の 5 連覇に貢献した。1977 年日本陸上連盟神奈川陸上競技会第二種公認審判員取得。1987 年第 16 期横浜市体育指導委員に委嘱される。2018 年全国スポーツ推進委員永年勤続表彰 (30 年) を受ける。



功績はスポーツばかりでなく自治会活動も偉大である。1965 年、根下自治会から分離独立した頃の向根下自治会は 190 世帯であった。創立 50 年 (2015 年) には 830 世帯を超えて、更にアパート、マンションも増え続けている。自治会加入世帯数は人口増とは比例せず自治会運営は難題ばかり。2007 年、自治会長に就任された渡邊さんは以前より行っている地下鉄中田駅周辺の歩行者の安全と駅周辺道路の美化運動等を継続、推進をしている。自治会として運動会、盆踊り大会、餅つき大会など子どもやシニアクラブ、スポーツクラブ、商店会と協力しながら親睦と交流の絆を大切にしている。特に最近は災害対策として防災訓練を重ねつつ、倉庫の備蓄、備品の充実に力を入れている。

渡邊さんの日課の一つは早朝の 1 万歩ウォーキングだ。朝 5 時頃、中田中央公園辺で鼻歌交じりのウォークしている人を見かけたらその人は多分渡邊さんだ。鼻歌のメロディが「昴」や「星影のワルツ」だったらもう間違いは無い。趣味のカラオケで 90 点超えの曲はまだ他にもある。「自治会長 18 年目です。20 年が一区切りと思って頑張っています」「何でも巨大化の時代は終わったと思っている」「自治会も連合も大きくなれば費用も人も足りなくなる」「敬老会や賀詞交歓会等簡素化できないか」「自治会へ加入するメリットとはなんだろう」・・・と、自問してみるが自答が見つからない。悩める渡邊さんにエールを送りたい。『地元愛、正々堂々一本道』 (松本 正)

■郷土歴史家・小島貞雄氏の功績 <4>

俳句で綴る「泉区郷土かるた」 宮田貞夫

小島さんが「郷土かるた」の発行を思いついたのは、泉区誕生の直後だったと語っている。時期的には昭和60年（1985年）、戸塚区から分区したことが動機になったようだ。中田生まれの小島さんにとって新生泉区は戸塚区よりはるかに身近な存在だったし、誰より旧中和田に愛着を持っていた。また泉区は小島さんにすれば古くから伝わる神社仏閣や遺跡、伝説、行事など郷土歴史の宝庫であった。これら貴重な有形無形の財産を残すことを生涯の使命と思っていた。私設の「小島民俗資料館」であり、「長後街道絵巻」、詩で綴る「中田史蹟めぐり」、中田が生んだ江戸時代の名力士「戸田川」を讃えた「相撲甚句」などに表れている。

小島さんの構想は泉区内の名所、旧跡など俳句で「いろはかるた」48句を作ること。問題は絵を描いてくれる人がいるかだ。平成4年、中和田小学校が開校100周年を迎える母校の記念誌編集会議の席で、絵図担当委員の安藤春代さんと偶然の出会い。安藤さんに「かるた」の件をお願いしたところ快く引き受けてくれた。小島さんは20歳のころから作句を始め、俳誌「冬草」では無鑑査同人。安藤さんはデザイン、イラストを手掛け数々の賞を受けている人だ。まさに、これ以上の組み合わせはない。

小島さんの苦労はこれからが本番。題材が6地区（中田・和泉・飯田・岡津・領家・新橋）均等になっているか。四季を通じて句が詠まれているか、史実に間違いはないかなど慎重に検討し作品を完成、48句と説明書を添えて安藤さんに届ける。一方の安藤さんも何度も現地を訪ね、自分の眼で直接確かめてから絵筆を執ったという。こうして生まれた「いろはかるた」は見事結実。特に安藤さんの「かるた」の絵は日本画調で繊細で色鮮やか。分かりにくい句も詩情豊かに表現し温かみと親しみのある絵になっている。

「泉区郷土かるた」を作るにあたり小島さんは安西正治さん（泉区連合町内会会長）にコメントを依頼している。最高の推奨の言葉として、ぜひ紹介したい。「既刊の『長後街道絵巻』でご承知の通り小島さんは単なる郷土史研究者としてばかりではなく、その知識と表現する技術の優秀さ、また生まれ育った郷土を愛しそれを後世に残したいという真摯な態度は、私の最も敬愛するところです。（以下略）ただただ小島さんの情熱には頭が下がります」。

<お知らせ>10月6日、しらゆり集会所で開かれる「白桜まつり」で「泉区かるた」にある48か所が俳句と絵がセットされた大パネルが展示される。幅4米×縦2米で制作「泉区歴史の会」。
12:00~17:30。必見！

編集後記

「二百十日」を前に、日向灘震源の地震が起きた。その後『南海トラフ初注意情報』が発表された。想定震源域は、太平洋岸 静岡までと広域だ。日頃の備えの再確認を促すものとなる。だが、これはどう対処すべきなのか よく判らない。

子供の頃の穏やかな 地球に戻すには、一人一人どうすればよいのだろう。

（小島敏子）

◎発行：中田地区経営委員会「かわら版」制作編集委員会

委員長 宮田貞夫 編集長 松本正

編集委員；山木重樹、小島敏子、田中進、河内満明、松本純子、鈴木賀津彦、嶋 宏之